

新大病院たより 和

第57号

(標題：中野雄一 元病院長)

病 院 長 挨 拶

「お疲れ様」

新潟大学医歯学総合病院 病院長 富田 善彦



職場で同僚と会った際には、まあ、挨拶をするわけですが、朝であれば「おはようございます」ですね。で、午後になれば「お疲れ様です」が一般的かと思います。私は、前任地で長らく「ご苦労様です」を、だれかれとなく挨拶に使用しておりました。ある時、「ご苦労様、というのは上から目線の挨拶なので、使うべきではない」ということを指摘され、そうだったのか、これはしまった、と思ったものでした。が、しかし、「お疲れ様です」という挨拶だって、「全員が疲れ切っているみたいで変じゃないか」と、天邪鬼に思ってもおりました。

2020年は医歯学総合病院にとって、発展する元年にするべく皆さんと一緒に頑張ろうと思っていた矢先の新型コロナウイルス感染拡大です。本院も、これまでとは全く異なった対応が必要とされ、新たな業務の発生も半端なく多いと思います。加えて、マスクの常時着用、一般生活にも制約がありますし、職員の皆様には、本当に「お疲れ様です」と申し上げたいと思います。

しかし、これまで、感染対策の構築と実施、コロナ病棟への改編や、復帰、救急医療の応援体制の整備など、毎日、毎週変化する状況に職員がチームとして機能することでうまく対応してきていると思います。また、外来の採血予約制の導入、外来原則院外処方化などなど、これまで、できなかった改善も行いつつあることも事実です。

このような状況下ではできる限りの情報収集と、その分析、病院の現状の的確な把握を行い、問題点の抽出と論理的な思考に基づいた対応策の決定、そして実行を粘り強く行ってゆくのの基本ですね。私は、大学時代バレー部で、4-5年生の時にキャプテンをしていましたが、どちらかという、pessimisticだったように思います。問題が起きて困っている時に同級生のひとりが、「大丈夫だよ、なんとかなるよ」と、いつも言ってくれました。以来、そんな風に考えるようになった私は、みんなで粘り強く対応すれば、このコロナも何とかかなと思っています。

2300人以上の職員を擁する本院ですが、このコロナが去ったあと、何とかなった後に、皆さんと一緒に慰労会を行いたいものです、その時には大きな声で「本当にお疲れ様でした」と言いたいですね。



● 本院の理念・目標 ●

◆ 理 念 ◆

生命と個人の尊厳を重んじ、質の高い医療を提供するとともに、
人間性豊かな医療人を育成します

◆ 目 標 ◆

患者本位の安全で安心できる医療を提供します
豊かな人間性と高い倫理性を備えた質の高い医療人を育成します
研究成果を反映した高度で先進的な医療を実践します
地域連携を推進するとともに地域の医療水準の向上に貢献します
病院運営の適正化と効率化を促進します



コワーキングスペースの整備について

「コワーキングスペース」という言葉は耳にしたことがあるでしょうか。

仕事をするうえで必要なデスク・椅子・プリンターなどがある業務スペース、会議や打ち合わせを行うミーティングルームなどを、異なる業界・業種の企業の社員や起業家等が共同で利用し、同じ空間でそれぞれの仕事を行う、「共に働く場所」を指す言葉です。ただ、コワーキングスペースは、自分の仕事を進めやすい環境が用意されているだけではその空間が十分に活かされておらず、利用者同士が新たなアイデアを生み出すために積極的に交流し、その実現に向けて共に挑戦していく場であることが大切となります。東京や大阪といった人口の多い都市部では、コワーキングスペースは増え続けているものの、新潟県内ではまだ数えるほどしか存在していません。

新潟大学医歯学総合病院では、本院が所在する旭町キャンパス内に、今年度新設されたライフイノベーションハブ 2 階において、法人向け会員制コワーキングスペースの整備を進めています。

今回、本院において整備するコワーキングスペースは、日本初の大学病院が運営するコワーキングスペースとなります。本院の医師・看護師を始めとする医療職や新潟大学の教職員、様々な業界・業種の企業や他大学、自治体等の関係者が集う、従来にはない新たなコミュニケーションが生まれる場となります。同じ空間に多様な人材が集うことで、普段は異なる分野で活動している人同士の交流から様々なアイデアや閃きが生まれ、イノベーション（今までの製品・仕組み・サービスなどに対して全く新しい技術や考え方を取り入れ、新たな価値を生み出して社会的に大きな変化を起こすこと）の創出に繋がっていくのではないかと期待しています。

また、ライフイノベーションハブ内には、大学院医歯学総合研究科のバイオインフォマティクス（ゲノム、プロテオミクスなどのオミクスデータを解析する生命科学と情報科学の融合科学）分野の教員が、新たに AI（人工知能）センターを立ち上げることから、同分野との融合も図っていきます。

これまで以上に、大学の「研究成果の社会還元」という使命を果たすため、今回コワーキングスペースという形でメディカル・ヘルスケア分野における新たな価値を共創する場を提供します。この新たな場で、新潟大学の強みである「脳研究」や新潟の重要な産業である「食」に関連する研究を主たるテーマとして掲げ、多様な人々が独自に持つ技術・ノウハウ・データなどあらゆる情報を、持ち寄り掛け合わせることで、次世代の新たな産業を創出することを目指して参ります。



ドナルド・マクドナルド・ハウスにいがたの建設について

お子様が難病に罹り、その治療には手術とその後の長期入院が必要になったら…ご家族は何としてもお子様を助けたいと思われるはずです。

しかし、治療できる病院が近くにない場合は、経済的な負担に加え、ご自宅と入院先との二重生活による疲弊、精神的な負担も覚悟しなければならず、大きな壁となります。

もしも病院の近くに家族が全員で滞在できる施設があれば…

例えばお父さんはハウスから出勤できます。ご兄弟姉妹はハウスから通園、通学ができます。お母さんは日に何度も病室に行けます。夜は寝付くまで病室で付き添ってあげてからハウスに帰宅して家族とともに過ごすことができます。

ハウスは、難病のお子様が入院された家族の負担を少しでも和らげ、可能な限り普通の生活を送りながら入院中のお子様のもとに寄り添えることを願って、公益財団法人ドナルド・マクドナルド・ハウス・チャリティーズ・ジャパンが設置・運営している滞在施設で、複数の家族が安価で滞在できるベッドルームのほか、キッチン、リビング、ランドリー、プレイルーム等があり、まさに、「第二の家」となります。

しかしながら、ハウス建設資金の調達が十分でなく、2019年12月の先号（第56号）でご支援のお願いをさせていただいたところです。

これまで皆様のご支援ご協力をいただき寄附は順調に進み、目標額の1.8億円に対し、1千人（団体）を超える皆様からご寄附をいただき、2020年7月現在約1.35億円に達し、あと4千5百万円程となりましたが、ここにきて新型コロナウイルス感染症による影響で寄附が伸び悩んでおります。皆様におかれましても厳しい財政状況となっていることは承知いたしておりますが、ハウスの完成を待っている難病や小児がんの子ども達とその家族のためにも、あともう少しのご支援を切にお願いいたします。

募金の詳細につきましては、本院に設置してある募金趣意書をご参照いただくか、下記のURL又はQRコードから本学のホームページをご参照願います。

皆様のお力で難病の子供たちに明るい未来を！

URL <https://www.niigata-u.ac.jp/university/donation/dmh-niigata/>



既存の
ハウスの様子



プレイルーム



ダイニング



キッチン



エントランス



ランドリー

中央診療施設紹介 ②⑤

物流センター

物流センターは、医療材料部門、滅菌部門、ME（Medical Engineer:臨床工学技士）部門、リネン部門、ベッド洗淨部門の 5 つの部門から構成された中央診療部門です。直接患者さんと接する部門ではありませんが、患者さんに対する診療業務を支える、縁の下の力持ちとして日々、業務に邁進しています。

医療材料部門は、約 1000 品目の医療材料（注射針、注射筒、医療用マスクや手袋などの消耗品）を有する中央倉庫を運営し、物品管理の効率化と適正な在庫量の維持により病院運営に貢献しています。採血セットや蘇生バックセットの供給、点滴作業台の交換、外科・内科などの各部署の取り扱っている医療材料の定数管理品の補充など、医療業務に使用する消耗品の払い出しを行っています。

滅菌部門は、手術器材、病棟・外来での使用器材、歯科器材といった患者さんに使用するほぼ全器材の洗淨、セット組み、滅菌業務を行っています。回収された各種器材を最新型の全自動洗淨装置と 3 種類の滅菌装置を用いて適切に処理しています。滅菌の質を保証するとともに、IC タグを用いて洗淨・滅菌の履歴を管理するなど、安全性にも十分配慮しております。

ME 部門は、患者さんに用いる人工呼吸器、人口透析装置をはじめ、輸液ポンプ、輸液シリンジ、経腸輸液ポンプなどの保守点検、これらの機器の貸し出しなどを臨床工学技士が担当して行っています。医療機器専門の臨床工学技士は、医療機器を管理することで医療機器の安全性を担保し、医師・看護師と共に安全なチーム医療を実践しています。

リネン部門は院内全部署のタオル類の供給等を行っています。また、ベッド洗淨部門では、毎日 10 台のベッドを洗淨し、患者さんに清潔で安心な入院生活を提供できるように運営を行っています。

物流センターは安心・安全・確実な医療材料・器材・機器等の運用を使命として、感染対策上も重要な役割を担っています。
（物流センター 副部長 坂田 純）



病気の基礎知識 26

小児科



「熱性けいれんについて」

子供は発熱するとけいれんすることがあります。脳炎や髄膜炎といった怖い病気のこともありますが、ほとんどの場合は熱性けいれんが原因です。

日本人の場合、発熱時にけいれんをする子供が約 8 %といわれています。主に、生後 6 か月から 60 か月の乳幼児に起こり、通常は 38.0℃以上の発熱に伴い発作を起こします。発作は全身性のけいれんの場合が多いですが、体の一部分のけいれんだったり、脱力する発作だったり、一点を凝視しボーっとするだけの発作だったり様々です。発作の多くは 5 分以内に止まり、しばらくすると普段と同じような状態に戻ります。子供が初めてけいれんを起こした場合はとてもびっくりしてパニックになってしまいがちですが、落ち着いて対処することが大切です。子供が危なくないように衣服を緩め、嘔吐してもいいように横向きに寝かせてあげるといいです。舌をかまないように口のなかに何かを詰めようとする人がいますが窒息の可能性があり危険です。

初めて子供がけいれんをした場合は救急車で来院されることが多いですが、ほとんどの場合は病院到着までにけいれんは止まっており、意識の障害はなく元気に泣いていることが多いです。その場合は熱性けいれんが最も考えられ安心して大丈夫です。しかし、けいれんが 5 分以上持続して止まらなかったり、止まっても意識の回復が悪かったり、ぐったりして全身の状態が悪い場合は別の怖い病気も考える必要があり注意が必要で、原因検索のため検査が必要になります。

熱性けいれんはほとんどの場合 1 回きりですが、30 %ほどの子供は繰り返すことがあります。その場合は発熱時にけいれん予防の座薬を使うことがありますので主治医とご相談ください。また、風邪薬の中に鼻水の薬として含まれていることが多い抗ヒスタミン薬がありますが、これはけいれんの持続時間を長くする可能性があるといわれています。発熱時に風邪薬を使用する場合は主治医とよくご相談ください。

（小児科 高橋勇弥）

顎口腔インプラント治療部、 医療連携口腔管理治療部が新設されました

顎口腔インプラント治療部

顎口腔インプラント治療部では、顎の関節や咀嚼筋の痛みや運動障害に対応する「**顎関節治療部門**」と、歯を失ってしまった方の顎の骨に、人工の歯根を埋め込んで治療をする「**口腔インプラント治療部門**」の2部門で治療を行っています。

最近「顎関節症」という言葉を耳にすることが増えたと思いますが皆様はいかがでしょうか？顎関節症の方は、①口があかない、②口をあけると顎が痛い、③口をあけると音がするといった症状を訴えて来院されます。このような顎関節症を専門に診療するのが「**顎関節治療部門**」です。原因である顎や筋肉に加わる負荷を減らす治療と、痛みや筋肉の緊張に対する理学・薬物療法を行っています。

自分の歯を失ってしまった時、どうすればよいのでしょうか。動物は歯を失うと生死に直結すると言われていますが、人間は人工の歯で補う（補綴する）ことができます。最近の研究では、入れ歯でも自分の歯でも、良く噛むことができる人は、アルツハイマーになりにくく、脳梗塞も起こしにくく、良く噛めない人と比べて、健康寿命が長いことがわかってきました。良く噛めることの重要性は、世界中で注目されているのです。歯を補う方法には、両隣の歯を使って固定するブリッジや取り外しの入れ歯、デンタルインプラント、親知らずなど自分の歯を移植する方法があります。このうち顎の骨に人工の歯根（インプラント）を埋め込んで補綴する治療は「**口腔インプラント治療部門**」が担当しています。

最近、顎の調子が悪い方、歯を失ってしまってお悩みの方は是非一度ご相談下さい。皆様の健康長寿に貢献できるよう最善の治療法をご提案させていただきます。

（部長 魚島勝美、副部長 荒井良明）

医療連携口腔管理治療部

医療連携による口腔機能管理は2011年新潟大学歯学部附属病院において口腔支持療法外来という特殊外来としてスタートしました。2012年の医学部・歯学部両附属病院の統合による医歯学総合病院新外来棟移転に伴い医療連携口腔管理チームとして再編され、2020年4月には中央診療部門の一つとして医療連携口腔管理治療部に移行し新しくスタートしました。現在部長1名を始めとして、副部長1名、特任助教2名の専従・専任歯科医師を中心に、各歯科専門診療科や歯科衛生部門、看護部門、患者総合サポートセンターなどと協力して診療を行っています。以下、多岐にわたる治療対象についてお知らせします。様々な疾患に対する治療方法や治療薬の開発により医療は日々進歩していますが、その治療による副作用として、口腔内の様々な不快症状も多くなってきました。また、口腔内をきれいにすることによって手術後の誤嚥性肺炎などのリスクを下げるのが広く知られるようになってきました。医療連携口腔管理治療部では、①感染対策（口腔感染巣による全身への影響や誤嚥性肺炎の予防）、②口腔粘膜炎管理（放射線治療、化学療法による粘膜炎の予防や症状の緩和）、③顎骨壊死対策（薬の治療や放射線治療による顎の骨髄炎の予防）を三本柱として診療にあたっています。具体的には、①食道、胃、頭頸部、肺などを中心とした腫瘍の手術、②心臓を中心とした循環器系の手術、③臓器移植（骨髄移植を含む）、④化学療法（各種がんの薬による治療）、⑤頭頸部の放射線治療、⑥骨粗鬆症の治療など骨を強くする薬の投与、⑦免疫抑制剤や大量ステロイド剤の投与、⑧人工股関節置換術等の整形外科手術、⑨脳卒中に対する手術、などで治療開始前からの口腔内全体の管理が重要と言われています。これらの治療を受ける際にはぜひ主治医の先生と相談し、医療連携口腔管理治療部を受診することを検討してみてください。

（部長 高木律男、副部長 新美奏恵）

ハイブリッド手術室の稼働について

手術部は中央診療棟2階と3階の2階建て全14室の構造で、年間8,800件超の手術に対応しており、年300件ペースで増加の一途をたどっております。さらに、ハイブリッド手術室を2階手術室に増築し、2020年4月から手術室No15として稼働を開始いたしました。

ここでハイブリッド手術室について簡単に説明いたします。『ハイブリッド』という語句は「異なった要素を混ぜ合わせたもの・組み合わせたもの」という意味です。ハイブリッドカーは電気とガソリンの力で走る車ということになります。このように二つの機能を組み合わせたものがハイブリッドです。ハイブリッド手術室とは、手術室に懸垂型の血管造影装置を統合させたもので、従来は手術室と血管撮影室、それぞれ別の場所に設置されていた機器を組み合わせることにより、高性能なX線撮影を行い、直ちに高画質3次元画像を構築できる機能を持つ手術室のことをいいます。基本は手術室ですので、无影灯をはじめとする手術に必要な医療機器が備わり、空気清浄度が確保されています。

足の付け根の動脈から細いカテーテルを大動脈瘤の中まで挿入し、収納されている「ステントグラフト」を広げる治療は、これまで移動式X線透視装置を用いて従来の手術室で行って来ましたが、更に安全かつ迅速に実施可能となります。また、2019年から血管撮影室で開始した、高リスクの僧帽弁閉鎖不全症の患者さんに対して行う経皮的僧帽弁クリップ術、右房と左房の間にある心房中隔に先天的に穴が空いている患者さんに対して行う経皮的心房中隔欠損閉鎖術も、これからはハイブリッド手術室に移行して行います。さらに、運用開始後には、大動脈弁狭窄症の患者さんに対して行う経カテーテル的大動脈弁置換術、心房細動の患者さんの左心耳を閉鎖して血栓が遊離するのを防ぐ経カテーテル左心耳閉鎖術の施設認定を取得し、開始する方針となっています。

(手術部 副部長 今井英一)



病院運営支援のお願い

本院では、診療環境の充実やよりよい医療の研究・開発のため、民間企業や個人の篤志家の皆様から広く寄附金を受け入れる制度を設けております。

いただきました寄附金は、患者様に快適な療養生活を過ごしていただけるよう病院の環境整備、最新の医療機器の導入、地域医療を担う医療人の育成、医学教育・研究の充実、病院運営の改善などに使用させていただきます。

多くの方が本寄附金制度にご賛同いただきますようお願い申し上げます。

なお、寄附いただいた寄附金には、税制上の優遇措置があります。パンフレット（寄附申込み書）は、医事課窓口、入退院玄関及び病棟ナースステーションに用意しておりますのでぜひご覧ください。

バックナンバーは本院ホームページ(<https://www.nuh.niigata-u.ac.jp/about/koho.php/>)からご覧になれます。

新大病院たより「和」(第57号)

発行日／2020年8月

発行者／新潟大学医歯学総合病院広報委員会

〒951-8520 新潟市中央区旭町通一番町754番地

(お問い合わせは総務課総務係 電話 025-227-2408まで)